



「富士山百景」晩秋の山里

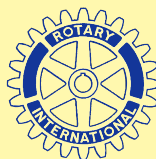
VOL. 2512

Rotary International

和のこころで...

第2512回例会 2015.10.7

ソング「我らの生業」



富士ロータリークラブ WEEKLY

<http://www2.wbs.ne.jp/~fujirc/>

例会日:毎週水曜日 12:30
 例会場:ホテルグランド富士
 TEL(0545)61-0360
 事務所:〒416-0913 富士市平垣本町8-1
 ホテルグランド富士内
 会長:太田 義隆
 副会長:小出 隆久
 幹事:植田 眞晴
 副幹事:岸本 泰次

会長挨拶

太田 義隆



今週はノーベル賞の発表があり、医学生理学賞に日本で3人目の大村 智さんと物理学賞に日本で11人目の梶田隆章さんが受賞されました。二人の受賞内容は報道にて皆さんも御承知だと思いますので省略いたします。大村 智さんは世界的な細菌学者の北里柴三郎が1914年に創設した北里研究所で永く仕事をし、創設者の北里も1901年の第1回医学生理学賞の候補でしたが受賞を逃し、今回の受賞で北里研究所創立以来100年越しの悲願が達成されました。

梶田隆章さんは恩師の小柴さんが考案したカミオカンデ、スーパーカミオカンデの製作に参加し、埼玉県から家族でカミオカンデに近い富山県に移住したそうです。小柴さんの研究を引継ぎ二代目として受賞されたことは今後の日本の若い研究者にとって多いに励みになるでしょう。最後に、今年こそは文学書には村上春樹さんが受賞されるよう願っております。



幹事報告

植田 眞晴

- ①例会変更のお知らせ
 新富士RC 10月20日(火) 振替休会
 富士宮西RC 10月9日 訪問例会 例会せせらぎ三島クラブ
 10月23日 振替休会 10月30日 夜間例会
 沼津北RC 10月13日 企業訪問例会
- ②ガバナー事務所より
 ・10月のロータリーレートは、1ドル=120円
 ・地区大会スケジュールはガバナー月信の3ページに掲載されています。
- ③R財団委員会より
 8月ロータリーカード入会実績報告
- ④会報回覧
 富士山吉原クラブ 富士宮クラブ 静岡南クラブ
 富士社会福祉協議会 赤十字NEWS

親睦委員会

佐藤 昌久

入会記念日 植田 眞晴 H21.10.14
 中村 淳 H25.10.16

☆私のスマイル

中島康治君 何となく。
 岸本泰次君 今日は、出席できました。
 磯西 昭君 ゴルフ同好会がこの12日で400回を迎えます。立ち上げからたずさわり感無量です。

出席報告

佐藤 昌久

2512回

会員数	計算会員数	欠席者数	出席者数	出席率
25名	25名	7名	18名	72%

2510回 9/16確定

会員数	計算会員数	欠席者数	出席者数	出席率
25名	25名	5名	20名	80%

例会プログラム予告

10月14日(水) 夜間例会(夫人同伴) メリーズホップ (雨森氏の店)
 10月21日(水) 卓話



石井組の歴史 (Part 1)

「石井組」の歴史は明治 32 年 (1899) に、初代石井與市が富士郡今泉村依田橋にて看板を揚げ始めました。創業期となるこの時代は、欧米諸国に迫り着き近代国家になる事を目標として教育、産業化を進め明治中期には鉄道敷設、財政制度の整備、産業の保護育成といった政策を取り工業立国としての礎を固めていきました。新しい国家の建設という熱気の中で石井組は生まれました。

この頃、富士の発展に寄与したのは鉄道です。明治 22 年 2 月 1 日東京 (新橋)～静岡間に東海道線が開通しました。鈴川の停車場 (吉原駅) でも盛大な開通式が行われ、岳南地方最初で唯一の鉄道駅が開駅し、4 月には静岡～浜松間が開通しました。

この新しい交通機関の出現は、今まで馬や駕籠、人力車しか知らない人々の生活を一変させたと思います。駅前には旅館が開業し、運送屋が看板を揚げ、商店が軒を並べ人力車が頻りに往来するようになりました。創業から 4 年後の明治 36 年石井組は依田橋から鈴川駅前に店を構えました。現在も本家があります。

鉄道関連工事と並び主体となっていた工事は街道整備工事です。根方街道、田子浦街道、東海道、下田街道をはじめ甲州街道や熱海街道工事の名前も工事記録にありました。富士郡下だけでなく伊豆方面の県東部にまで創業期は広範囲に活動していた事が解りました。

そのなかに、明治 37 年日露戦争が勃発したこの年の記録に「天城隧道工事」がありました。安政元年の日米和親条約の締結で下田が即時開港となり、ペリー艦隊は下田港に集結し、そのため下田奉行が置かれました。伊豆半島の真ん中で左右に分断する天城山にトンネルを作る事は南伊豆の人々の悲願であったと思います。この隧道は今も石巻の堅牢な姿を残しています。

現在でも国内で有数の製紙工業地帯である岳南地域は鉄道によって原材料の搬入や、全国各地に向けて製品を出荷する事が出来ました。明治 42 年富士製紙第 8 工場のすぐ目の前に東海道線富士駅が開設され、駅前の急速な都市化を促すこととなりました。さらに明治 44 年富士身延鉄道会社が翌年に富士馬車鉄道を買収し、翌大正 2 年 7 月に身延線が富士～大宮間が開通しました。その後甲府まで敷設され甲府地方と東海道線は結ばれました。

2 代目の源治は、石井家と縁戚でもありその有能な仕事ぶりから初代與市に認められ、その後與市の長女くまと結ばれ、石井家の婿に入った事で富士駅前に石井組の名で店を構えるようになりました。つまり明治 42 年から昭和初期にかけて「鈴川の石井組」と「富士の石井組」の 2 社が存在していた事になります。富士山登山道工事、河合橋架け替え工事、狩野川災害復旧工事、県道沼津御殿場線道路工事などにも源治が携わっていた形跡があります。

こうして初代與市、2 代目源治がともに力を合わせ、石井組の名の下に多くの人々が富士の町づくりに携わってきました。その最中初代與市は、昭和 8 年 5 月 13 日 68 歳の生涯を閉じました。與市の死を契機にやがて「富士の石井」が「鈴川の石井」の仕事を引き継ぎ石井源治が実質的な後継者となっていきました。富士製紙第 8 工場の建設の際建設資材の搬入業務請け負った関係から第 8 工場の構内運搬作業を一手に引き受け源治は運送業を主体とした請負業者として始めました。「関東大震災」で被災地へ救助活動や物資の輸送等に活躍するトラックを知り、トラック 3 台を購入し富士製紙などの輸送に従事させ、昭和 2 年石井組運輸部に自動車部門が発足しました。昭和 4 年富士製紙の経理課に勤務していた石井四郎が源治の嗣子となり石井組の代表として迎えられました。

3 代目石井四郎 (旧姓 柴田) は明治 35 年 11 月 23 日静岡県志太郡岡部に生まれました。富士製紙の経理課に勤務していましたが、その才に惚れ込んだ源治に請われ、石井組の代表となりました。源治自らは会長に退き、代わって 3 代目となった四郎は早速経営の才覚を発揮し昭和 6 年には製紙原木の買い付けを始めました。3 代目の陣頭指揮によってその業種も多角化しつつあり、石井組はさらなる躍進を果たす事になる、はずでしたが、昭和 12 年の日中戦争の戦果は激しさを増し、翌昭和 13 年 3 月「国家総動員法」が成立しました。石井組の大黒柱である 3 代目四郎は、志半ばで戦地へと送られてしまいました。石井組にとっても、源治をはじめ後に残された者たちにとっても辛く厳しい時代の始まりでした。